

# 社会的連帯で暮らしと平和を守ろう

## 新潟県内の日本共産党組織が総行動

国会の会期末まであと一カ月。医療と教育基本法の改悪法案、「共謀罪」法案など国民の暮らしと日本の未来にかかわる悪法が通るかどうかの大きな山場を迎えています。

こうした中、新潟県内の日本共産党組織は一日から二日まで、「社会的連帯で暮らしと平和を守ろう」を合言葉に宣伝、党勢拡大で総決起しています。

スタート日となった十四日には、来年の参院選新潟選挙区予定候補の武田勝利氏（写真）や次期衆院選比例・北陸信越ブロック予定候補の山口典久氏が上越入りし、日本共産党への入党物語や激動の情勢下での日本共産党の役割を語り、支援を訴えました。

このうち武田氏は最初に、父親亡き後、一人で育ててくれた母親への感謝の思いを込めながら日本共産党への入党の経緯を語りました。次いで、青年の職場や自分の子どもが通っている学校などで勝ち組と負け組のふるい分けが進んでい

る実態を紹介、小泉内閣のもとで社会的格差が急速に進み、新たな貧困の広がりも生まれているとのべました。最後に武田氏は、

「金子みすずの詩に『みんなちがって、みんないい』という言葉があるが、みんなに個性があり、みんなが生かされる社会をつくりたい。そのためにも、小泉内閣の国民への総攻撃に、日本共産党と共に連帯して反撃していきましょう」と訴えました。

今回の総行動では、小泉内閣の悪政にストップをかけるための宣伝と日本共産党を知ってもらい、仲間を増やす活動が中心となっています。ぜひ、あなたの力をお貸しください。



# 議長選挙の前に候補者が所信表明

どんな選挙でも、投票者は、誰が立候補しているか分かっていることが投票の前提です。そして立候補している人の見解を聴く、これもごく当たり前のことです。この当たり前のことが本市議会の議長・副議長選挙において取り込まれることになりました。これは16日の各派代表者会議の申し合わせで決まりました。

これまでの議長・副議長選挙では、誰が立候補しているのかが明らかにされないまま、投票して選挙していました。そのため、当人にその意思がないのに票が入ってビックリということも。

各派代表者会議では、正副議長選挙のあり方が数回にわたり議論されました。わが党を含むいくつかの会派から、「だれが立候補しているのかわからないで選挙はないのでは」という意見が出され、さらに、

「全議員の前で所信表明をするべきだ」という意見も出ていました。

県内では長岡市などですでに取り組みされていますが、候補者が所信表明してから議長などの選挙を行うのは、上越市議会史上初めてのことです。14市町村が合併して2年目、新市の議会にふさわしい改革といえるでしょう。これを契機に議会を活性化させたいものです。

申し合わせでは、候補者の所信表明は本会議場で行います。1人5分以内で、表明の順序は届け出順。内容に対する質疑は実施しないこととしています。なお、立候補表明しなかった人への投票があった場合でも、無効とはなりません。

議長選挙などが行われる予定の臨時議会は明日22日です。

### 委員協議会の

### あり方も改革へ

議会活性化検討委員会（小林章吾委員長）は、議会活性化に関する検討課題についてこのほどまとめました。

同委員会はすでに、一般質問の質問席について議長への答申をしていますが、今回のまとめはそれに続くものです。本会議や常任委員会のあり方などについてふれています。

注目された検討課題の一つ、委員協議会については、議会開会中は、できるだけ開催しないことになりました。必要があれば正規の常任委員会の所管事務調査として行うことができるところです。また、閉会中に想定される各委員会ごとの調査事件については、あらかじめ定例会の中で、閉会中の所管事務調査として議決し、正規の委員会として活動できるようにすることに。これも当然のことです。

日本共産党議員団が提案していた委員会への市長の出席、決算議会の早期（8月頃）開催については、現行どおりでよいとして受け入れられませんでした。

山菜採りのシーズンです。写真はタケノコをゆでるところ。燃料費の上昇と関係あるのかどうかは分かりませんが、薪を燃やし、釜でゆでて食べる、このやり方が一番美味しいですね。吉川区にて14日撮影。



## 日本共産党上越市議団ニュース

48 2006年5月21日

連絡先	杉本敏宏	524-3787	(東本町5)
	樋口良子	544-6802	(中門前3)
	橋爪法一	548-3628	(吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203	(頸城区中柳町)